

呼吸器病を予防しましょう

機会が多くなり、呼吸器病の集団発生を起こすリスクが高まります。

乾燥した清潔な敷料：糞尿で汚れた敷料は様々な感染症の感染源となるだけでなく、アンモニアの発生源ともなります。また、子牛の体が濡れたまましていると余計にエネルギーを消耗し、ストレスとなります。

●生まれた子牛に十分な初乳を飲ませること
母牛からの十分な移行免疫がなければ、子牛は感染を抑えることができせん。

●ワクチンを接種する
呼吸器病で利用されている主なワクチンには、次のようなものがあります。

6種混合ワクチン：IBR、RS、PI3、AD7（以上が生）、BVD・IMDのI型とII型（不活化）。

5種混合生ワクチン：IBR、RS、PI3、AD7、BVD・IMDのI型（すべて生）

5種混合不活化ワクチン：IBR、RS、PI3、BVD・IMDのI型とII型（すべて不活化）

呼吸器病の治療・対策
呼吸器病を発症してしまった場合、抗生物質を投与して治療します。目的は、細菌やマイコプラズマの増殖を抑えることです。発症後早期に治療し、慢性化させないことが重要です。

対策として、呼吸器病を発症してからの治療よりも、発症を抑える予防に重点が置かれます。ストレスの軽減とワクチン接種が柱になります。ワクチン接種だけでは十分な効果をj得ることはできず、環境の改善やストレスの軽減が最も重要です。

●牛の置かれた環境を整え、ストレスを軽減する
十分な換気：換気が不十分だと、空気中のアンモニア濃度が上昇し、牛の呼吸器粘膜がダメージを受け、病原体に感染しやすくなります。
密飼いの防止：密飼いの状況では、牛同士の接触によって伝染する

V D I M D

●マイコプラズマ

●細菌

マンヘミア・ヘモリティカ(Mh)、パストレラ・マルトシダなど

牛の呼吸器病は、牛呼吸器病症候群(BRDC)という複合感染の

たちをとることが多くあります。まずウイルスの感染で始まり、マンヘ

ミアなどの細菌やマイコプラズマが複合的に感染することによって発症

します。

マンヘミアは健康牛の鼻腔にも存在する細菌の一種ですが、ストレス

やウイルス感染などがあると、肺で急速に増殖し、重篤な肺炎を発症する原因になります。

呼吸器病が重篤化、慢性化した場合、発症牛が死亡してしまうことがあります。

治療が功を奏し症状がおさまっても、その後の成長・生産に悪影響を及ぼすことが予想されます。

まだまだ凍れる季節、体調を崩したり、カゼをひいたりされていませんか？ 家族内感染によって、いつも誰かがカゼをひいているというご家庭もあるのではないのでしょうか。

学校や商店など、大勢が集まる場所では特に注意が必要です。わが家でもマスクを常備して感染防御に努めています。

牛でも同様に、子牛を密飼いしている場合など、呼吸器病の集団発生を引き起こし、大きな被害をもたらすことがあります。今回は呼吸器病対策について少しまとめてみたいと思います。

●ウイルス

牛伝染性鼻気管炎ウイルス(IBR)、牛RSウイルス、アデノウイルス7型(AD7)、パラインフルエンザウイルス3型(PI3)、牛ウイルス性下痢・粘膜病ウイルス(B

ウイルス

ウイルス

ウイルス

ウイルス

ウイルス

ウイルス

ウイルス

これらの他に、マンヘミア不活化ワクチン（Mh1型）も利用することができま。それぞれのワクチンの特長と使用方法について詳しいことは、獣医師にお尋ねください。

ストレスを抑え、ワクチンを接種しても呼吸器病を発症してしまうことがあります。早期発見・早期治療をこころがけ、異常牛が発見されましたら、お近くの診療所までご相談ください。

（標茶家畜診療所診療課 高尾 聡）



事業部改良課から

『追い移植』をしてみませんか

授精に伺ったどこの酪農家さんの牛舎の中にも、毎回発情がはつきりして人工授精しているのになぜか種が止まらず、繰り返し授精を続けているリピーターブリーダー牛（多回授精牛）と言われる長期不受胎牛が何頭か見受けられます。このリピーターブリーダー牛に対しては追い移植が有効で、成果を上げている組合員さんが多数いますが、現状ではまだまだ多くの組合員さんに普及し利用されてはいない様です。

現在、釧路地区NOSAIの各改良課が乳牛に対して行っている追い移植とは、発情が来たリピーターブリーダー牛に黒毛和種精液を授精し、授精後7日目に授精時と同一の種雄牛で作ったF1の体外受精卵を移植するという方法で、この追い移植を行うことで約50%（90日NR）が受胎しています。生まれた仔牛に

についても同一種雄牛により生産されたF1ですので授精証明書と移植証明書を送付する事で個体販売上の問題はありません。手順も授精に伺った授精師に「とまりの悪い牛だから追い移植をしたい」と言ってもらえば、その後の予定を立てますので是非相談してみてください。

せっかく手間とお金をかけて育てた牛を、種が止まらないからと淘汰してしまう前に、最後の切り札として追い移植を試してみてもどうでしょうか。

詳しくは地区担当の授精師にお尋ね下さい。

（事業部改良課 村井 浩之）